

コロナにまけるな！農学部生への支援活動報告

発起から支援実施前夜まで



様々な銘柄

お米がざり

受付風景

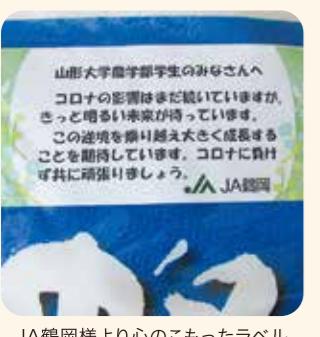
お米の搬入



お米とカレー。最強コンビ!



ラベルを作りました。えっへけ～



JA鶴岡様より心のこもったラベル

最後に、お米やレトルトカレーをご提供してくださった鶴窓会庄内支部の会員の皆様、庄内地域に在住の皆様、企業様、また、学生への配布等にご助力くださった農学部職員の皆様に、心より感謝申し上げます。(松山)

は、移行してきたばかりの2年生です。受講している45名全員が回答してくれました(農学部2年生は全体で1,65名)。

実家・一人暮らしの双方を含む鶴岡在住者は約84%であり、特に一人暮らしの学生から「経済的な不安を感じている」「アルバイトも出来ないため、このまま続くと生活の維持が難しくなりそう」といった声が届きました。考へていた以上に深刻な状況で、不要不急の外出や、サークル活動・アルバイトを自粛する学生が大半となりました。

登校できない学生に対してもZoom(Webs会議ツール)を用いた講義が実践されました。学生は、アパートや実家から安全に受講できる一方で、対面環境でない学生の表情をリアルタイムで窺いながら講義を進めていくうちに、数人の学生の表情が曇っていくことになりました。教員でもある私は、Zoomのビデオ機能を用いて、学生の表情をリアルタイムで窺いながら講義を進めていくうちに、数人の学生の表情が曇っていくことになりました。

そこで、4月30日にZoomのチャット機能を利用して簡単なアンケートを行いました。対象この結果を鶴窓会本部役員に伝えたところ、すぐに「鶴窓会と何らかの支援をすべき」との声が上がりました。百瀬副会長から、「庄内産のお米での支援」を提案いただき、正に農学部同窓会らしい支援が出来ると共感を覚えました。

再び講義内で「庄内産のお米の給付を希望するか」というアンケートを実施したところ、約50%の学生から「希望する」「割安ならば有料でも」といった実施を望む回答が得られました。連休明け5月7日のことです。これら2度のアンケート結果より、支援の

対象は、鶴岡在住学生(2～4年生、院生、および留学生)の50%、およそ300名に対する支援策

を検討する必要があると考えられました。学生さんからの聴取より、米5kg／人あれば、1か月程度の支援となることも分かりました。よって、集めるべき目標量は、 $300 \text{名} \times 5 \text{kg} = 1,500 \text{kg}$ となります。試算当初は、とてもない数字に思え、どのようにシックを覚えました。

戸惑いの中でも多くの方に助言・助力を求めました。様々な意見を頂戴する中で、百瀬副会長より、知人と併せて300kgのお米の提供が出来るとの申し出がありました。庄内支部、さらにお米の提供が出来ることになりました。庄内支部、さらに、安藤会計幹事を通じて、地域定住農業者育成コンソーシアム事務局(以下、コンソーシアム)特集2をご参考くださいからも支援呼びかけの協力をいただけることになりました。支援の輪がゆっくりと回りだした感覚を覚えています。

同時に課題も出てきました。ご提供いただくお米は、精米ばかりとは限りません。玄米でいただけます。また、訪問時、鶴窓会の会員から「後輩になる現役学生の生活の支えになれば」との温かいお声。地域の方々からは「これから日本農業を担う農学部生に頑張って欲しい」との励ましのお声をいただきました。対応した我々も、山形大学農学部が卒業生や地域の方々に支えられていることを改めて実感する機会となりました。

学生への支援のお米は、鶴窓会庄内支部の会員や地域定住農業者育成コンソーシアムの関係者、さらに、その方々からの呼びかけに応えて下さった庄内地域に在住の方々からご提供していただき、お米を生産している方からは、自家消費用に備蓄していました。お米を購入して提供してくださった方もありました。お米を購入して下さった方々は庄内地域全域の2市3町(鶴岡市、酒田市、遊佐町)、庄内支部の会員の皆様、庄内地域に在住の皆様、企業様、また、学生への配布等にご助力くださった農学部職員の皆様に、心より感謝申し上げます。(松山)

お米の受け取りと支援実施

た方々の善意に、ただただ頭が下がるばかりです。この頃には当初の不安は消し飛び、あとは遅滞なく支援者の皆様からお米を受け取り、そして第1回の期日に間違なく手渡すことが出来るよう万全を期するだけとなりました。(渡邊)

町、庄内町、三川町)にわたりました。お米の受け取りは鶴窓会事務局員で回りました。ちょうど、田植えの時期と重なり、忙しい合間の昼休みや作業の終わった夕方に対応していただきました。また、訪問時、鶴窓会の会員から「後輩になる現役学生の生活の支えになれば」との温かいお声。地域の方々からは「これから日本農業を担う農学部生に頑張って欲しい」との励ましのお声をいただきました。対応した我々も、山形大学農学部が卒業生や地域の方々に支えられていることを改めて実感する機会となりました。

学生へのお米の支援(配布)は、鶴岡キャンパス内にある農学部会館1階の食堂で行いました。3密を避けるため、お米の受け取りを希望する学生へは、事前にメールで受取時間を連絡し、食堂に学生が殺到することがないよう考慮しました。受け取りに来た学生は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を遵守し、全く混乱もなく、第1回目から円滑な配布ができました。4月以降、全ての授業がオンラインとなり、大学構内への立ち入りが制限されていましたこともあり、小白川キャンパスから移行した新2年生の多くは、初めて鶴岡キャンパスに来る機会となつたようです。3年生以上の学生も、久しぶりの友人と再会に笑顔も見られました。また、留学生の受け取りも多く、お米の支援に興奮する様子も見受けられました。

最終的には、当初の目標数量を超える1,620kg(精米換算のお米をご提供)いたしました。以下、今回の取り組みの概要となります。

- 配布実施日
5月18日(月)、5月24日(日)、5月31日(日)、6月3日(水)の計4回
- 配布場所
農学部会館1F食堂
- 支援学生数
延べ324人(実数は287人)
- お米の提供者
(個人)青木政樹様、青山光三様、阿部重彰様、荒木洋一様、伊藤隆様、太田三千夫様、大滝春様、木村充様、佐久間憲生様、佐藤誠様、去渡勝宏様、菅原良和様、高橋敏能様、武田壯二様、富樫仁様、芳賀充様、丸山淳様、百瀬清昭様、百瀬康昭様
- 支援量
精米換算で1,620kg
(5月12日～5月29日)
○ レトルトカレーの提供量
1,200食
- お米提供量
精米換算で1,620kg
- 支援量
お米..5kg／人、レトルトカレー..3~5袋／人を配布
- お米の提供者
(個人)井上農場様、JA庄内たがわ様、JA庄内みどり様、JAそでうら様、JA鶴岡様、わたなべ農園様、山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター
- レトルトカレーの提供者
丸善食品工業株式会社様



百瀬副会長よりお米のご提供



丸善食品工業株式会社様よりレトルトカレーのご提供

いた場合は、精米する必要があります。それに、1,500kgものお米をストックする場所も確保しなくてはなりません。ここは、農学部の協力が不可欠と考えられました。

お米を貯蔵する場所も確保を検討する必要があると考えられました。学生さんからの聴取より、米5kg／人あれば、1か月程度の支援となることも分かりました。よって、集めるべき目標量は、 $300 \text{名} \times 5 \text{kg} = 1,500 \text{kg}$ となりました。試算当初は、とてもない数字に思え、どのようにして集めれば良いのかさえ、見当もつきませんでした。

戸惑いの中でも多くの方に助言・助力を求めました。様々な意見を頂戴する中で、百瀬副会長より、知人と併せて300kgのお米の提供が出来るとの申し出がありました。庄内支部、さらにお米の提供が出来ることになりました。庄内支部、さらに、安藤会計幹事を通じて、地域定住農業者育成コンソーシアム事務局(以下、コンソーシアム)特集2をご参考くださいからも支援呼びかけの協力をいただけることになりました。支援の輪がゆっくりと回りだした感覚を覚えています。

同時に課題も出てきました。ご提供いただくお米は、精米ばかりではありません。玄米でいただけます。また、奥山事務部長より、学務システムを用いて学生への通知が出来たように手配いただきました。村山農学部長から、直に全面的な協力を約束いただきました。

間もなく11月を迎えるとしている現在、新型コロナウイルスに対する抜本的対策は未だ見つかっていません。一方で、10月の後期講義からは、対面講義・演習が再開されており、キャンパスにも学生の声が響くようになりました。自粛統きだった街もゆつくりと動き出しています。学生さんたちに聞くと、アルバイトも出来るようになってきているそうで



入していく所存であります。そして、友人ともその感謝の気持ちをお伝えに、「消費者」として足を運びたいと考えております。消費していくことで、せめてものお返しがしたいという気持ちです。お米、本当においしかったです。皆さんのお気持ち、ごちそうさまでした。　（学部2年生）

(学部2年生)

○外食が減つて自炊が増えた分、お米の減る速度が速くなり、お米が底を尽きそうになつていました。また、お米を買うとしても割と値段が高いため、どうしようかと悩んでいました。しかし、丁度その時にお米を無料で配布していただけるというお話を舞い込んできたのです。この話を見たとき、本当に嬉しい気持ちでいっぱいになりました。今はいただいたお米を毎日美味しくいただいております。本当にありがとうございます。感謝いたします。

○ご提供していただき、非常に感謝しています。コロナ禍でバイクの収入が減り、帰省もできず食料の心配をしていましたが、多くのお米をいただけたことで、不安が和らぎました。ありがとうございます。（大学院1年生）

○レトルトカレーの提供ありがとうございました。カレーもいただけると思つていなかつたため、すごく嬉しかつたです。早速食べてみましたたが、庄内のお米と合つておいしかつたです。カレーを食

ではなく、レトルトカレーによつて私のひもじい食生活が救われたのです。今は貴重に美味しくいいただいております。ありがとうございます。（学部3年生）

に来た友人たちとも、本当にす
ごいねとわくわくしながら帰つ
いたことを覚えています。この
自粛期間が完全に過ぎたら、私
がここにいる間だけでも、生産者
の方にはちゃんと庄内産のお米
を購入して直接還元出来たらな
と考えています。学生のできる範
囲になつてしまいますが、できる
範囲でたくさんの方の還元をしてい
きたいです。また今回、このよう
な給付をしてくださった方の中
で、もし飲食店や販売を行つてい
る方がいらっしゃいましたら、こ
れからは本当の意味での還元を
したいと考えています。私たち学
生の目に触れられるような範囲
で、企業様のお名前や生産して
くださる方々の販売商品やお名
前だけでも公開していただけた
う、私の中では今後ますます購

くさんいらっしゃる庄内に居られること、山形大学農学部であることを改めて素晴らしく感じました。ありがとうございました。

○今回は私たち学生のためにお米を提供くださりありがとうございました。これでしばらく食べていられると私含めみなホクホクして受け取らせていただきます。
（学部4年生）

べたら元気が出ました。本当にありがとうございました。
(学部2年生)

○ご支援いただきありがとうございます。
ざいました。外出自粛や学校での講義もオンライン授業となり外でご飯を食べる機会がなくなった中で、手軽に食べることの出来るレトルトカレーはとても便利で大変助かっています。

今回このようご支援いただいたことへの感謝を忘れずにいたします。今後、私自身が社会へ出る際には丸善食品工業様のように誰かの力となれるような存在になりたいと感じました。本当にありがとうございました。

(学部3年生)

コロナ禍の学生へのコメ支援 と鶴窓会の使命・役割

が再開されたり、キャンパスにも学生の声が響くようになります。したがって動き出しています。学生さんたちに聞くと、アルバイトも出来るようになつてきているそうですね。

あれから5ヶ月が経過しましたが、あの時のような窮状を感じることはめつきり減りました。しかしあの時期には、間違いなく窮状を訴える学生さんがいました。

そんな在校生の窮状に対し、農学部同窓会として何をすべきなのか？何が出来るのか？本当に出来るのか？そんな葛藤もありました。その葛藤を共有し、協働してくれるメンバーが居たことは、本当に心強かったです。そして、卒業生以外にも、地域定住農業者育成コンソーシアムの呼びかけを通じて地域の方々の多くのご支援に助けていただきました。この場を借りまして深く御礼申し上げます。

在校生の皆さんにとって、今回の支援が少しでも学生生活の支えになつたのであれば、鶴窓会と

新型コロナ禍の学生へのコメ支援
と鶴窓会の使命・役割

り、「命の糧」として食料確保が重要課題となっています。有事の際は保存がきいて主食になるコメがあれば少しでも気持ちに余裕が持てるはずです。さらに学生たちはコメの支援を通じて地域コミュニティの温かさに触れ、「自分は一人ではない」という安心感を持つことができたようです。

他大学出身の知人は、「大学の同窓会が現役学生に直接コメ支援を行うことは考えられない」と言っています。学生、大学、同窓会そして地域の方々の距離が近く、面倒見のいい地域である証拠です。少子・高齢化と人口減少が急速に進む日本の地域社会を担う若者、学生たちを可能な限り支援することは、今後の鶴窓会の大きな使命であり地域貢献となります。

○ちょうどお米が無くなってしまったのでとても美味しいので食べるのを勿体無いです!!学校にはまだ行けませんが、お米を沢山食べて勉強頑張りたいと思います。本当にありがとうございました!!

(学部2年生)

学生からのメッセージ

7 鶴窓会だより

鶴窓会だより